

第1学年 生活科の実践

1. 単元名 「きせつとなかよし あき」(全14時間 本時10時間目)

2. 単元目標

秋の自然を諸感覚を使って観察したり、自然物を使って遊んだりする活動を通して、秋の特徴やほかの季節との違いを見つけ、それらで遊ぶ方法を考えたり、遊びを楽しく工夫したりすることができ、自然や生活の様子の変化、自然の面白さや不思議さ、野原や公園で決まりを守ることなどに気づき、季節の遊びや生活を楽しく創り出すことができるようにする。

3. 「ひびき合う三の丸の子どもたち」にせまるために

研究課題「子どもが解決したい問題を持ち、友達とひびき合いながら学習する子どもの育成」

手だて 子どもの願いや思いを見とった単元構想と授業づくり

ブロックテーマ 「感じる心、素直に表現する自分」

- ・ 人の言動に何かを感じる姿
- ・ 自分の思いや他者からの刺激を受け止め、素直に表現する姿

〈これまでの関わり合い・ひびき合い〉

これまで話し合いをすることや意見を発表することに慣れるために、簡単な問題でも意見の交換を行うように取り組んできた。例えばひらがなの学習では、「あ」から始まる言葉を発表するために、3・4人のグループで話し合い、出た意見を1つにまとめたりしぼったりして、発表させることを続けた。何度も経験していくうちに、他の班と被った場合のためにより出にくそうな単語を話し合って選択したり、参加できていない児童にも声をかけながら話し合ったりするようになってきた。また、発表が苦手な児童でも、グループの意見として声をそろえて発表することで、参加しているという意識が育ってきた。

意見を出し合う際には、児童のネームマグネットを活用し、全員の名前を黒板に掲示させるよう心掛けて指導をしている。道徳の学習では、意見を出せない児童でも、「〇〇さんと似ている。」「〇〇さんと同じで、～。」と友達の意見を聴きながら言うことができ、みんなで考えた意見として共有している。まずは友達の意見を真似して、いいなと思った意見をもらう。そこから更に「自分も同じでそう思う。」「友達と似ていて私は、～。」と思いをもっていけるよう指導している。

4. 単元と指導について

〈単元について〉

本単元は、次の学習指導要領の内容を受けている。

身近な人々、社会及び自然とかかわる活動に関する内容

- (4) 公共物や公共施設を利用する活動を行う
- (5) 身近な自然を観察したり、季節や地域の行事に関わったりするなどの活動を行う
- (6) 身近な自然を利用したり、身近にある物を使って遊ぶなどして遊ぶ活動を行う

自分自身の生活や成長に関する内容

- (8) 自分たちの生活や地域の出来事を身近な人々に伝え合う活動を行う

本単元では、木の実や落ち葉という児童にとって魅力的な自然物が多く見られる豊かな秋を存分に体感させたい。自然の中で五感を使って、全身的な活動をすることで、言葉や動作で表現することや、自然物を使って遊ぶことの楽しさに気づくことができるようになってくると考える。自然物を通して、ものづくりをしたり客を招待したりすることで、さらなる成長を図りたい。

〈指導について〉

生活科の学習では、1年を通した季節に関わる学習を行う。春には、藤の花やシロツメクサ、くまばちなどの動植物を見つけて、初めて観察カードに記録させた。入学したてで文字を書くことが難しい児童も多かったため、最初は例文を提示し、写して書かせることから始めた。初夏には紫陽花や蓮の花を見に行ったり、朝顔を育てたりして、記録をとらせた。朝顔の成長を観察していくことで、観察とは何を見たらよいのか、どんなところに注目するとよいのかを知り、自ら見たこと感じたことをカードに記入することができるようになってきた。また何度も観察カードを書かせることで、自分なりの言葉で記入することができるようになってきた。

またこれまでは、こちらが学習課題を提示し、その問いに対して答えさせる授業形態が多かった。本単元では、児童に秋について想起させ、何をしたいのか、何を作りたいのか、児童の意見から汲み取って単元計画を練っていきたいと考える。国語の「くじらぐも」の学習では、児童から出た疑問を学習課題とし、子供たちが考えた答えを3・4人のグループごとに話し合っまとめる学習を行ってきた。何度もくり返し行い、経験を重ねることによって少しずつ似ている意見をまとめたり友達の意見を聞いたりすることができるようになってきた。本単元ではさらに、出た意見から自分たちなりの工夫を考えたり、相手を楽しませたりすることができるように指導していく。

本時では、みんなで作ってみた秋のおもちゃを、もっと楽しむためにどう工夫したらいいかを考えさせていく。友達と一緒に遊びながら、ゲームのルールを決めたり、おもちゃの形を変えたりすることで、自分たちが楽しいと思えるだけでなく、遊びに来たお客様にとっても、「来てよかった。楽しかった。」と思わせることができるような工夫を考えさせていきたい。また、みんなで遊ぶことの楽しさが感じられるように話し合う時間だけではなく活動の時間もとっていけるようにしたい。

入学してたったの半年だが、少しずつ小学生らしく、みんなの意見を取り入れられるようになった今、友達と

の遊びを通して、より楽しく遊ぶための工夫を伝え合う姿をひびき合いの姿としていきたい。

5. 単元構想 「きせつとなかよし あき」

単元目標

秋の自然を諸感覚を使って観察したり、自然物を使って遊んだりする活動を通して、秋の特徴や他の季節との違いを見つけ、それらで遊ぶ方法を考えたり、遊びを楽しく工夫したりすることができ、自然や生活の様子の変化、自然のおもしろさや不思議さ、野原や公園のきまりを守ることなどについて気づき、季節の遊びや生活を楽しく創り出すことができるようにする。

あきについての前にはる・なつを思い出し、

夏祭りどんなものがあった？

- ・スーパーボールすくい →ヨ→ヨ→ヨ
- ・射的
- ・あてくじ

「あき」といえば？

- ・とんぼ →きのこ・どくしょ →きんま
- ・どんぐり
- ・まつぼっくり →ヨ→ヨ→ヨ
- ・おちば
- ・いちよう・はっぱのいろがいろいろ
- ・さつまいも
- ・はっぱのいろとかたちかわる・こおろぎのこえききたい
- ・むしとりしたい
- ・やまのほりをしたい
- ・どんぐりはっぱまつぼっくりとりたい・かざりしたい

がっこうのあきをもつつけにしよう ①

- ・とんぼがとんでいた。
- ・おちばがおちていた。
- ・ほかのところもみてみたい。
- ・どんぐりひろいたい。
- ・まつぼっくりおちているのしってる。
- ・もっと虫取りをしたい。・どんぐりがあった。

秋の草花や樹木、虫などに関心をもち、それらを観察したり、木の実などを集めたりしようとしている。【主】

がっこうのまわりのあきをもつつけにしよう ②

- ・あかいはっぱがおちてた。
- ・きいろいはっぱがおちてた。
- ・むしのおとがきこえる。
- ・きのみみつけた。
- ・むしがいた。
- ・まつぼっくりみつけた。

ネイチャーゲーム
・全員が静かになり、自然の音に耳を傾ける。

あきさがしでみつけたものでなにができるかしらべよう ③

ひろったものでなにがしたい？

- ・ つくりたい (かざりを 12にん・あそべるものを 19にん)
- ・ かざりしたい (リースに 11にん)

図書室にて調べ学習

多様な木の実や葉の形や色などを生かした遊びができることに気付いている。【知・技】

しらべたもの

- ・ どんぐりごま →どんぐりのキーホルダーづくり
- ・ たまいれゲーム
- ・ でんでんだいこ
- ・ ユーフォーキャッチャー
- ・ けんだま
- ・ やじろべえ
- ・ どんぐりまつぼっくりでどうぶつづくり
- ・ サッカーゲーム
- ・ ボーリング
- ・ まつぼっくりツリー
- ・ ネックレス
- ・ ジャンプゲーム
- ・ おとしあなゲーム

あきさがしでみつけたものでなにをしたい？ ④

つくったあと、どうする？なにをしたい

- ・ おもちゃをつくりたい。
- ・ みんなに見せたい。
- ・ あそびたい。
- ・ やらせてあげたい。
- ・ ゲームをしたい。
- ・ しゃしんをとりたい (クロームブック)
- ・ がっこうのみんなであそびたい

だれと

- ・ 6ねんせいとあそびたい。
- ・ 2ねんせいにみせたい。
- ・ かぞくをまびたい。
- ・ みんなとあそびたい。
- ・ 1ねんせいをよぶ
- ・ せんせいたちをよぶ→じかんがないんじゃない→ロンひるなら
- 1ねんせいと6ねんせいをよぼう

・ 誰に見てほしいか、誰と一緒に遊びたいかを考えさせる。

おまつりをしよう！

なまえをどうする

- ・ たいけん
- ・ あきのびじゅつかん
- ・ あきのものランド
- ・ 1-3おもちゃランド
- ・ あきのゆうえんち
- ・ あきのゆめこうえん
- ・ あきのあそびば
- ・ あきのおもちゃかがくかん
- ・ ゆめにもみたゆうえんち

1-3あきのおもちゃランドをしよう！

なにをつくりたい

- ・ ボーリング
- ・ たまいれゲーム
- ・ びーだまおとし
- ・ クレーンゲーム
- ・ サッカーゲーム
- ・ けんだま
- ・ やじろべえ
- ・ こま
- ・ ジャンプゲーム
- ・ すぐにはつくるのふあん。
- ・ さいしょにみんなで作りたい
- ・ 2こつくりたい。・ こま けんだま をつくってみる。

あきのものでどんなおみせやさんができるかな？ ④

- どんぐりこまをつくりたい。
- えをつくってかざりたい。
- どんぐりをなげてあてるげーむやさんをしたい。
- アタセサリーをつくっておみせやさんにしたい

教科書

p 72-75 参照

秋を楽しむ遊びに向けて、計画を立てようとしている。

【主体的に学習に取り組む態度】

みんなであきのおもちゃどんぐりごまをつくってみよう ⑤⑥

- ・ もっとむずかしくしたい。
- ・ もっとあそびたい。
- ・ 得点とかつけたい。

・ 児童から出た作ってみたいものの中から、人数が多かったものをみんなでまず試作し、自分たちでおもちゃを生み出す楽しさを感じさせる。

- ・ たいせんしてたのしかった。
- ・ ちいさいどんぐりでまたつくりたい。
- ・ もっとはやくまわしたい。

秋の身近な自然物を使って遊ぶことに関心をもち、みんなで楽しく遊ぼうとしている。【知識・技能】

もうひとつあきのおもちゃけんだまをつくってみよう ⑧⑨

どうやってけんだまをつくらうかな？

【いれるところ・のせるところ】

- ・ かみこつぶ ・かん ・スプーン
- ・ かみざら ・ペットボトル ・ペットボトルのふた

【つなぐもの】

- ・ ひも ・いと ・すずらんテープ ・カラーテープ

- ・ かみこつぶを4つつなげる。
- ・ わりばしをつなげる
- ・ かみこつぶとペットボトルキャップをくっつけて、てんすうをつける。

けんだまをつくってみよう

- ・ 前よりつくるのがむずかしかった。
- こっちのほうがたのしかった。
- うまくできなかった。

- ・ つくるのがむずかしかった（たいへんだった）けど、あそんだらたのしかった。
- ・ 2こつけるけんだまをつくったらぜんぜんはいんなかったから1こでやったらはいった。
- ・ 2こつなげたい。
- ・ おともだちとどっちのほうがさきに行けるのかやってみよう。
- ・ もっとかわいくなりたい。

おもちゃの動きを試したり、友だちのおもちゃと比べたりしながら、繰り返し遊んでいる。【思・判・表】

1-3あきのおもちゃランドでどんなおみせやさんができるかな？ ⑩⑪

- ~~どんぐりごまをつくりたい。~~
- ~~えをつくらってかざりたい。~~
- ~~どんぐりをなげてあててるげーむやさんをしたい。~~
- ・ アクセサリーをつくっておみせやさんにしたい。

秋を楽しむ遊びに向けて、計画を立てようとしている。【主体的に学習に取り組む態度】

UFO キャッチャー	サッカー ゲーム	てんごく じごく ゲーム	あきのど うが	かざり づくり	ボーリ ング	どんぐり おとし ゲーム
---------------	-------------	--------------------	------------	------------	-----------	--------------------

おまつりをしよう ⑮⑯

おまつりをしてどんなことを思ったかな？ ⑰

- ・ 楽しかった。
- ・ お客さんがたくさん来て大変だった。
- ・ みんなが喜んでくれてうれしかった。
- ・ せつめいするのがむずかしかった。
- ・ もっとおおきなこえでいうとよかった。
- ・ おきやくさんがきたときはきんちょうしたけどけっこうせつめいできたとおもった。

- ・ みんなとかがえてためして、いろいろなことをおもいつきました。
- ・ いろいろつくとだんだんうまくなっていろいろできるようになりました。
- ・ おきやくさんがきたときはきんちょうしたけど、みんなでやるとあまりきんちょうしなかった。
- ・ せつめいするとたのしくなってきました。 ・ みんないけんをだしていいなとおもいました。 ・ みんながあそべるようにけっこうちょうせつしました。

- ・ ワークシートに楽しかったことや大変だったことを振り返らせる。

どうすればもっとたのしくなるかな？（どんぐりごま）

どんぐりごまをみんなでもっとたのしくあそぼうほうをかんがえよう⑥⑦

- ・ 長さを変える。
- ・ 得点をつける。
- ・ もっといっぱい作る。
- ・ まえあんまりまわらなかったけど、きょうくふうしたらでちがいがわかった。
- ・ 友だちときょうそうする。
- ・ バトルじょうをつくったのがたのしかった。
- ・ バトルじょうで、ポンドについたらまけのゲームがたのしかった。もっとしかけをつくりたい。
- ・ ともだちといっしょにかざりをつけたのがたのしかった。
- ・ どんぐりのほうしをつけたらつけたほうがおそかった。
- ・ ふたつつけたらまわらなかった。

秋の自然物の特徴を生かして、どんな遊びができるのかを考えながら、遊びを試している。

【思・判・表】

けんだまをみんなでもっとたのしくあそぼうほうをかんがえよう ⑨⑩

けんだまのこと

- 長さを変える。
- ・ はいるところをもっといっぱいつけてみる。

あそびかたのこと

- ・ 得点をつける。
- ・ 友だちときょうそうする。
- ・ はやくはいったひとのほうがかち。

みんなで楽しく遊ぶために遊びの工夫を伝え合い、遊びをよりよくしようとしている。

【主体的に学習に取り組む態度】

- ・ 作ってみるのが2回目なので、今後お店にすることも視野に入れながら作るように声掛けをする。

おもちゃの動きを試したり、友達のおもちゃと比べたりしながら、繰り返し遊んでいる。

【思・判・表】

自分がつくりたいものを

おみせにだすおもちゃをつくってみよう ⑪⑫⑬

あそびながらおみせのルールをきめよう ⑮⑯

- ・ すぐでんを大入れよう。
- ・ なんかいできるかきめたほうがいい
- ・ ゲームをして勝った人にプレゼントをあげよう。
- ・ 一番長くまで残ったあたりの人には景品をあげよう。
- ・

お客様が来ることを考えながら、計画を立てたり練習しようとしたりしている。【思・判・表】

おもちゃの楽しさを伝えたいという思いをもち、すすんで触れ合い、交流しようとしている。【思・判・表】

自分たちが秋を楽しむことができたことや、おまつりでお客様を楽しませることができたことがわかり、友だちや自分自身の成長に気づいている。【知識・技能】

6. 本時について

本時目標 より楽しく遊ぶための工夫を発表したり、友達の意見を聴いたりして、遊びをよりよくしようとする。

学習活動	主な支援・留意点
どうしたらもっと、たのしくなるかな？（けんだま） けんだまのこと あそびかたのこと ふりかえり ・かえたこと ・やってみておもったこと ・もっとやってみたいこと	・ 初めに学習の流れを説明する。 ・ だれとなにをしたいのかを思い出させ、一緒に遊ぶことや招待することを想起させる。 ・ 班で前時に考えた自分の意見を発表させる。 ・ 全体で発表させた後、自分はどの考えを採用するかネームマグネットを使って全員分揭示する。それをもとに友達と工夫して改良させていく。 教師の出どころ ・ 考えを二つに分類し、物の改良なのか遊び方の改良なのかわかるように板書する。 ・ 話し合いで出た工夫が今後のおもちゃ作りに生かしていけるよう振り返りに残させる。 ◆ みんなで楽しく遊ぶために遊びの工夫を伝え合い、遊びをよりよくしようとしている。 【主体的に学習に取り組む態度】

7. 実践を終えて

導入の「秋といえば何か。」という問いに対して、一人一つ以上の意見が出たことで、この単元への子どもたちの意欲を感じることができるようになった。その中から「虫探しに行きたい。」「自然を感じたい。」「山登りをしたい。」「どんぐりやまつぼっくりでなにか遊びたい。」という思いを共有した。これをすべて叶えようと、校庭や小田原城に自然を感じに行ったり、校庭で虫探しをしてみたり、わくわくハイクで各々山に登ったり、歩いたり一つ一つ実現させていった。そして、児童の意見からどんぐりやまつぼっくりでおもちゃを作り、お店を開こうという流れを作っていた。

【本時・ひびき合いについて】

本時は、お店屋さんを開く前に、おもちゃはどのように作るのか、どのように工夫することができるのかを考える2回目の学習だった。秋のものを利用したけん玉を各々考え、設計図にまとめたものを実際に作ってみる。そして、本時では、もっと楽しく遊ぶためにどんなことができるのか、意見を交流して改良するという内容であった。

児童がわかりやすい言葉にするために「どうしたらもっと、たのしくなるかな?」というめあてを設定した。そのことにより、児童はより具体的にルールや形の改良について考え、交流し、ひびき合う姿が見られた。得点をつけることを発表した児童には、「いいねー!」「すご。」と肯定的な反応がたくさん見られ、その後、何人かは実際に点数をつけて遊ぶ姿も見られた。ただ作って完成させるだけではなく、そこからルールや改良方法を話し合うことで、児童は新たな遊び方を知り、より楽しく遊ぶことができていた。意見を出し合ったり、話し合ったりして友達から「なるほど!」と思えるような意見の交換を行っており、ひびき合いから新しい考えの構築につながっているように感じた。

友達と対決したり、飾りをアレンジしたりと遊びをよりよくしようとする姿から、本時の課題は、児童が解決したいと思える問題になっていたのではないかと考える。

【教師の出どころについて】

この単元では、担任の意見ではなく、児童の意見で授業を進めることを意識して行ってきた。秋のもので何をしたいのか、何を作りたいのか、誰を呼んで、どんな内容にするのか。

担任は、児童と一緒に考えた問題を提示し、新たに児童が道を築いていけるよう助言をする。また、話し合いにより道が反れないように枠組みを作ったり、グループ分けをしたりする。そうして意見が出しやすく話しやすい環境にし、わかりやすい板書になるよう心がけた。

【成果】

この単元を通して、子供たちは、「自分たちから出た案や意見は実現できる。」という自信に繋がっているように感じた。また、全学年を対象とした「秋のおもちゃランド」を実施したことにより、準備すべきものやお客さまへの対応の仕方が分かり、同時に大変さや難しさにも気付くことができていた。何かを企画・運営する力、よりよい方法を考える力の素地を養うことができたことで、今後様々な学習や生活に生かすことができるだろう。

この単元では、毎時間の振り返りやアイデアノートを一つの冊子にし、「計画書」として活用してきた。振り返りを毎時間行うことで、次の時間にやってみたいことを書き入れたり、考えを残したりすることができた。

【課題】

本時では、友達の意見を参考にしたり自分の考えで実行したりできる児童がいる一方で、ひたすらに一人で挑戦する児童も見られた。周りの児童に目を向けさせ、声をかけ関わらせることによってやりやすい工夫に目を向けることができたのではないかとと思われる。また、グループ交流をする際に、同じグループの子に友達の意見の後押しをさせて、新たな発言に繋がられるよう声掛けを行うとさらに、様々な意見に触れることができたのではないかと考える。より様々な児童に目を向けられるよう、心がけていきたい。

11/22 No.13 きせつとなかよし あき



友達の意見や友達の活動を通して、学び合う姿

・話し合ったあとに、ネームプレートを貼り、自分がやることを明確にしていたことがよかった。
・時間配分がよかった。
(意見交換、活動、ふりかえり)
・アイディアスケッチの活用
・場の工夫(材料コーナー・遊ぶ場所)
・遊び方も子どもたちと相談していた。
・子どもどうしの関わり合い(先生が介入することで 関わり合いが生まれていた)

・かざりをメインにする・・おもちゃの工夫か？目標が「どうしたらもっと、楽しくなるかな」なのでよし。
・やりづらいけん玉を作って、ずっと挑戦している子人と関わることでもう少しやりやすい工夫に目が向くかも。
・グループ交流で、お互いの意見を理解しているので、全体での場で出ていない意見があったら同じグループの子が後押しして発言につなげることができるとうい。

ひびき合い

どうすればもっとたのしくなるかな？